

宮私幼PTAだより

第71号

発行者 会長 渥美 巖
編集者 副会長 堀内 隆
発行所 宮私幼PTA連合会
印刷所 仙台市青葉区二丁目6番6号
電話 (022) 263-7040



子育てしやすい
社会環境づくりを目指して！

会長 渥美 巖

国立社会保障・人口問題研究所によると、今後日本の人口は減少し、二〇三五年には一億一千六十七万人、宮城県は現在の二百三十六万人から二十五%減の百九十八万二千人と推計されています。

そのような中であって、県内幼稚園児も昭和六十三年の四万五千六十五人をピークに、現在はピーク時より二十三%減の三万四千八百十三人（うち私立幼稚園は、園児二万八千六百五十二人、構成比八十二%）となっています。

国家として最も基本となる人口が、減少していくことに、人口対策や子育て支援策が有効に行われてきたのか？なぜ子供が多くならないのか？反省と共に、今後しっかりとりました政策が必要と思います。

私達宮城県私立幼稚園PTA連合会は、県私立幼稚園連合会等と共に、去る一月十五日村井宮城県知事に対し、平成二十年度私立幼稚園に対する補助金の増額を陳情しました。その内容は『①各幼稚

園に対する運営費補助金は、国が示す額まで増額を②教職員の退職手当給付金に係る補助金の引き上げを③子育て支援活動に係る教育改革推進補助制度の新設を』であり、特に全国ワースト三位となっている①については、園児一人当たりの財政借置額（平成十九年度分）十六万六千五百二十二円から七千二百九十七円下回っていること、金額を示し、改善要望致しました。今回の陳情により、少子化の中にあっても県内各私立幼稚園の経営が安定し、質の高い教育環境への改善と保護者の経済的負担の軽減になり、結果として『子育てしやすい社会環境づくりと、子育て支援策の更なる充実』に、繋がるものと確信しております。

教育費に係る家庭の経済負担が増加する中で、会員の方々が安心して子供を私立幼稚園に通わせることができる社会環境づくりを目指し、努力して参りますので更なるご協力をお願い致します。

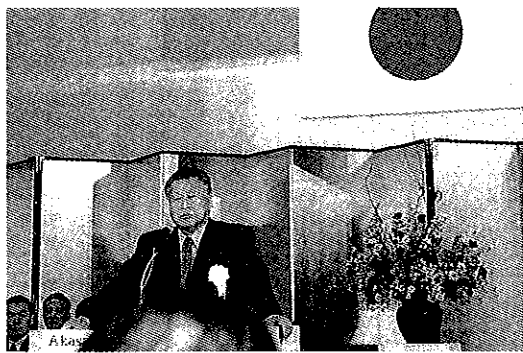
全日本私立幼稚園PTA連合会 全国大会に参加して



横山麻里子
（岩沼南こぼ幼稚園PTA）
去る十一月二十八日、東京・グラントプリンスホテル赤坂において

第二十二回全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会「次代を担う子どものために」家族の絆に心ゆたかな子」をスローガンに開催されました。

会場には、沢山の保護者の方や幼稚園関係者が集い、宮城県からはPTA役員・宮私幼役員の計十三名が出席しました。ステージには大勢の国会議員の方が参列される中、幾人かの宮城県衆参両議員の方にもお目にかかり、会場は熱

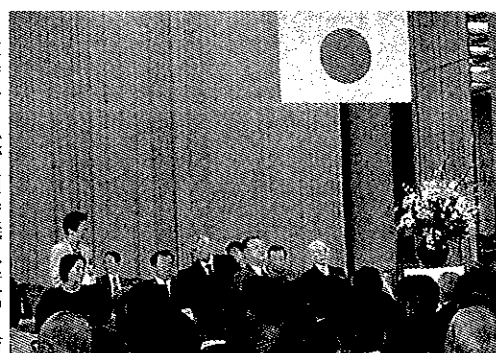


気に包まれておりました。

第一部では、森喜朗全日本私立幼稚園PTA連合会会長、三浦貞子全日本私立幼稚園連合会会長の挨拶があり、その後、福田内閣総理大臣の祝辞のメッセージが披露され、渡海文部科学大臣、伊吹自由民主党幹事長をはじめとする議員の方より祝辞を賜りました。次に、大会宣言案を保護者代表の新井氏が宣言文を読み、拍手で承認を得、文部科学大臣に手渡ししました。

第二部の記念講演では、脳科学者・ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャーとして、キヤスターでもある茂木健一郎氏が「子供と脳」という演題でお話をされました。人間はなぜ不確実性で満たされた世の中で、不安に感じずチャレンジできるのか。英国の心理学者ジョン・ホルビーは、問題行動を起こす子どもの共通点を研究したそうです。子どもが不確実なことにチャレンジできるのは、保護者が「安全基地」を与えているからだという発見をしました。親、保護者が過保護でもなく過干渉でもなく自由放任でもなく子どもの行動を見守っている。親子の目が合うことでドーパミンが出て、感情のダイナミクスが子どもの脳内に安全基地を作り、子どもは安心して不確実性に満ちた社会で積極的に探索行動ができるそうです。そんな安全基地を与えてくれる保護者に子どもは愛着を持ち、すがりつくような感情を抱く。

この構図がないと子どもは健全に発達できないというお話でした。私自身、子ども達が何事にもチャレンジできるように「見守る」ことを大切にしながら、楽しい子育てをしていきたいと思えます。



大会終了後、国会議員会館を訪れ議員の方々に就園奨励費の継続と増額を陳情して参りました。全国大会参加というすばらしい体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

お知らせ

- 平成20年度総会
。期日 6月5日(木)
- 。会場 宮城県民会館6階会議室
- 平成20年度
宮城県私立幼稚園教育振興大会
ならびに
第37回宮私幼PTA研修大会
。期日 7月1日(火)
- 。会場 宮城県民会館大ホール

「母親の品格」

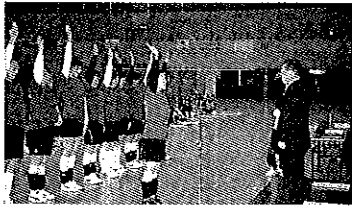
第33回親善バレーボール大会に寄せて

岩山 伸次

当連合会のバレーボール大会でいつも感じるのは喫煙する母親の多い事だ。しかし、ここ数年次第に喫煙する母親が減少して来ている様に見える。喜ばしい事だと感ずる。煙草を吸う事が良いか悪いか賛否両論がある事は確かだ。しかし、世論の大半は健康上の理由から喫煙は好ましくないと結論が出ている。私の父はヘビースモーカーであった。ピースの両切りをよく吸っていた。煙草は心を安める働きがある様だ。煙草を吸う人の汚らしさも熟知している。灰皿は臭いを放ち、煙草が切れると機嫌が悪くなったり灰皿の中にある少し長めの吸がらを取り出して吸う姿はあまり格好の良いものではない。身に覚えのある方も多いと思う。バレーボールをしている母親は子供から見ると大変誇らしい姿に写っている。しかし、その母親が煙草を吸う姿を見て子供にどう写っているだろうか。

世間では喫煙は良くないと言われ、学校でも喫煙の弊害が叫ばれているにも関わらず母親は吸っている。

なぜバレーボールをするのだろう。なぜスポーツをするのだろう。何も考えずスポーツをして

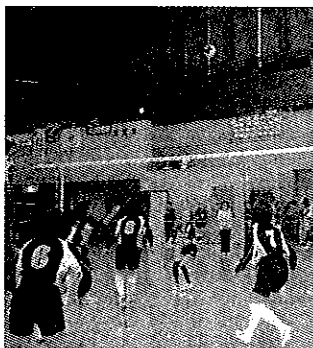


いますか。スポーツに限らず人が寄り合って行動するの考えた事はありますか。それぞれの考えがあるでしょうからその結論にはふれませんがひとつ言える事は人が集まって何かをする事が楽しいからに他ならないと思うのです。ここで考えて頂きたい事は人が集う時は必ずルールが必要だと云う事です。いつの時代にも自己顕示欲の強い人物は存在します。この自己顕示欲の強い人が人の和を乱し人の集いを破壊します。自己顕示欲の強い人自身もその事は薄々分かっていると思うのだが自分の性格をどう制御して良いか分からないのだと思う。ここで人の品格が人の和を保つ重要な要素である事が見えてくる。人の和を保つルールこそが品格と言えるべきものではないだろうか。常に人の立場や心情を考え人の和を保つ適切な発言や行動をする方の振舞いには美しささえ感じる。そして楽しさを周囲に振りまき集いをより有意義なものへととぎなっている。

スポーツをしているたくましい母親の姿、やさしさを漂わせる品格のある姿、そうした姿を子供達の脳裏に焼き付けていただきたい。そして子供達に将来の夢を尋ねた時「お母さんになりたい。」と云う答えが帰ってくるか。たまたま「お嫁さんになりたい。」でも良いと思う。家庭を持つ事の憧れの言葉の片鱗を聞かされたいものである。

最後になりましたが昨年夏に本大会を第一回より大会審判長として御協力頂いていました前宮城県バレーボール協会会長の武山清彦先生が他界されました。先生はバレーボールの普及に人生を捧げられ、特に当連合会の大会に寄せる思いは比類なきものでありました。ここに武山清彦先生に哀悼の意を捧げ御冥福をお祈りいたします。全文を通し説教調になりました事お許し頂きたいと思えます。美しく和のある大会が今後も続きます事を念願している事に他なりません。

(体育部長)



第33回親善バレーボール大会

★入賞チーム★

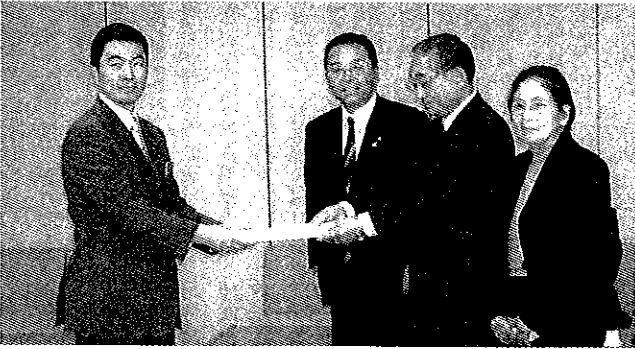
| | | |
|------|-------|--------|
| ブロック | 優勝チーム | 準優勝チーム |
| A | 葦の芽星谷 | すがわら |
| B | 大野田 | 岩沼南こぼと |
| C | ナザレト | 多賀城高崎 |
| D | パドマ | ふたばハイジ |
| E | 袋原立 | 華 |
| F | 東北学院 | こどもの国 |

お知らせ
第34回親善バレーボール大会
期日 平成20年10月9日(木)
会場 宮城県総合体育館
(ホットハウスアリーナ・利府町)

知事陳情報告

副会長 横澤 行夫

本年一月十五日、県庁の会議室に於いて、村井嘉浩知事に対しまして、陳情を行いました。宮私連合会より執行部八名、PTA連合会より、渥美巖会長、中島源陽副会長、稲富将夫副会長、横山麻里子副会長、寺澤正志常任委員長と横澤の六名、県私学文書課より、課長はじめ三名の立会いのものと、村井知事に、平成二十年度予算に関わる、私立幼稚園への補助金増額等の要望書を提出しました。母親代表で出席した横山副会長の話に、耳を傾け、幼児教育の重要性を鑑み、前向きに努力していきたい旨のお話をされました。



表彰おめでとうございます

〇横澤行夫先生
仙台市 お人形社学園理事長

〇お人形社第二幼稚園園長
(お人形社第二幼稚園園長)

永年にわたり、幼稚園経営者として、常に創造を求め特色のある経営をめざし、将来を見すえた保育指導を積極的に行うなど、高い理念の持ち主である。また園長として、今も尚精力的に幼児教育一筋に歩んできた功績は誠に大なるものがあります。この度文部科学大臣から教育功労者として表彰されました。



〇庄司昭先生
(学校法人庄司昭学園理事長)

永年園長・理事長として、幼児教育の振興充実に尽力され、また宮城県仙台市PTA連合会の発展充実に貢献された功績により、この度宮城県知事より教育文化功労賞を受彰されました。
(副会長 稲富 将夫)

地区活動報告

平成十九年度気仙沼地区研修会
「リズムにのって音あそび」
どれみ♪コンサート

気仙沼愛耕幼稚園（P）
齋藤 房子

昨年十月十六日、気仙沼市民会館に於いて、和やかな雰囲気の中、宮城県私立幼稚園PTA連合会気仙沼地区研修会を地区内の各園の会員のご協力とご参加を多数頂いて、盛大に開催する事が出来ました。

「音楽は非言語的コミュニケーションと言われ、情緒の部分に直接働きかけます。」（香里先生の手記より）という言葉通り、当日のステージは素晴らしい歌声と演奏で会場の観衆を魅了した事は言うまでもありません。広い舞台を所狭しと、右へ左へとパフォーマンスする香里先生に、子供達も身を乗り出して楽しんでいました。ステージ後半は、知っている歌のイントロが流れると子供達も歌い出し、いつしか会場全体が大合唱になっていました。

「音楽は非言語的コミュニケーションと言われ、情緒の部分に直接働きかけます。」（香里先生の手記より）という言葉通り、当日のステージは素晴らしい歌声と演奏で会場の観衆を魅了した事は言うまでもありません。広い舞台を所狭しと、右へ左へとパフォーマンスする香里先生に、子供達も身を乗り出して楽しんでいました。ステージ後半は、知っている歌のイントロが流れると子供達も歌い出し、いつしか会場全体が大合唱になっていました。



忙しい日常の空間を離れ、音楽による癒しを親子で実感し、体験出来た楽しいひと時となりました。音楽を通じて親子で触れ合う事がお互いの心の栄養になるのだと再認識させられました。

最後に、会を開催するにあたりご尽力頂いた、各園の先生方、役員及び会員の皆様、各関係機関の皆様、講師を快諾して頂いた佐藤香里先生に、この場をお借りして深く感謝と御礼を申しあげます。

平成十九年度

「親子で楽しむふれあい体操」

大崎栗原地区研修交流会
千手寺幼稚園 P
千葉まなみ

去る十月十四日（日）、加美町中新田体育館において宮城県私立幼稚園PTA連合会大崎・栗原地区研修交流会が開催されました。爽やかな秋晴れの中、八つの幼稚園から親子二二一名にご参加頂きました。今年「親子で楽しむふれ

あい体操」という内容で、仙台市のコスモスポーツから講師として三名の先生をお招きしました。幼稚園毎に整列し開会式・先生方の紹介と続き、会場からは、さあ今から何が始まるのだろうか、という期待と緊張がうかがえました。

スタートは、「おしりフリフリ体操」でした。音楽が鳴り出すとステージの先生方がおしりをフリフリ。それを真似てやってみます。すぐに最初の緊張感は取れて会場全体が笑いに包まれました。続いて親子で一組になり、親が子どもを抱っこして座り、左右に倒れたり揺れたりドライブごっこ。親が子どもと同じ目線に立つて遊んでいる時は、子ども達も本当に楽しそうに遊ぶものです。

また、参加者全員が交じり合っただのジャンケンゲームなども、とても盛り上がりました。最後に手話を取り入れたリズム体操、「君に逢えて嬉しい」をしました。親子で向き合って手話で気持ち伝えるということをお互いにちよつぱりにはかみながら、そして言葉は無くともとても温かい気持ちになったのではないのでしょうか。親子のふれあいから始まり、園でのふれあい、最後には参加者全員でふれあう事ができ、体育館に大きな「和」ができました。

日頃、忙しさのあまり子ども達の相手を玩具やゲームに任せがちになり、お友達と遊ぶ時もお互いにゲームを持ち寄り、終始無言で



下を向き、会話といえは攻略法：の様子に慣れてしまっていた部分がありました。道具が無くて一日にもなりました。道具が無くて、親子でお友達同士でこんな楽しい気持ちになれるのです。特に幼児期にたくさんのコミュニケーションを取る事で親子の信頼

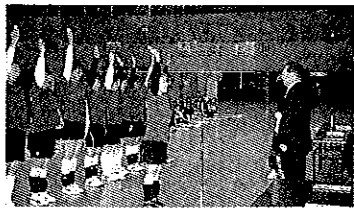
関係が生まれ、子どもはそれを土台として成長していつてくれるのだと思えました。この、年一回の「研修交流会」をふれあいの機会の一つとして今後ますます多くの皆様にご参加頂けましたら、PTA連合会の輪が広がり、子どものため、保護者の皆様のためのもっと充実した内容の「ふれあいの場」が提供されることでしょう。最後に、この日のためにご尽力くださった皆様に感謝申し上げますとともにPTA会員の皆様のご活躍とお子様達の健やかなご成長をお祈り申し上げます。

「母親の品格」 第33回親善バレーボール 大会に寄せて

岩山 伸次

当連合会のバレーボール大会でいつも感じるのは喫煙する母親の多い事だ。しかし、ここ数年次第に喫煙する母親が減少して来ている様に見える。喜ばしい事だと感ずる。煙草を吸う事が良いか悪いか賛否両論がある事は確かだ。しかし、世論の大半は健康上の理由から喫煙は好ましくないと結論が出ています。私の父はヘビースモーカーであった。ピースの両切りをよく吸っていた。煙草は心を安める働きがある様だ。煙草を吸う人の汚らしさも熟知している。灰皿は異臭を放ち、煙草が切れると機嫌が悪くなったり灰皿の中にある少し長めの吸がらを取り出して吸う姿はあまり格好の良いものではない。身に覚えのある方も多いと思う。バレーボールをしている母親は子供から見ると大変誇らしい姿に写っている。しかし、その母親が煙草を吸う姿を見て子供目はどう写っているだろうか。

世間では喫煙は良くないと言われ、学校でも喫煙の弊害が叫ばれているにも関わらず母親は吸っている。なぜバレーボールをするのだろう。なぜスポーツをするのだろう。何も考えずスポーツをして



いますか。スポーツに限らず人が寄り合って行動するの考えた事はありますか。それぞれの考えがあるでしょうからその結論にはふれませんがひとつ言える事は人が集まって何かをする事が楽しいからに他ならないと思うのです。ここで考えて頂きたい事は人が集う時は必ずルールが必要だと云う事です。いつの時代にも自己顕示欲の強い人物は存在します。この自己顕示欲の強い人が人の和を乱し人の集いを破壊します。自己顕示欲の強い人自身もその事は薄々分かっていると思うのだが自分の性格をどう制御して良いか分からないのだと思う。ここで人の品格が人の和を保つ重要な要素である事が見えてくる。人の和を保つルールこそが品格と言えるべきものではないだろうか。常に人の立場や心情を考え人の和を保つ適切な発言や行動をする方の振舞いには美しささえ感じる。そして楽しさを周囲に振りまき集いをより有意義なものへとぎざなっている。

スポーツをしているたくましい母親の姿、やさしさを漂わせる品格のある姿、そうした姿を子供達の脳裏に焼き付けていただきたい。そして子供達に将来の夢を尋ねた時「お母さんになりたい。」と云う答えが帰ってくるのか。たとえ「お嫁さんになりたい。」でも良いと思う。家庭を持つ事の憧れの言葉の片鱗を聞かされたものである。

最後になりましたが昨年夏に本大会を第一回より大会審判長として御協力頂いていました前宮城県バレーボール協会会長の武山清彦先生が他界されました。先生はバレーボールの普及に人生を捧げられ、特に当連合会の大会に寄せる思いは比類なきものでありました。ここに武山清彦先生に哀悼の意を捧げ御冥福をお祈りいたします。全文を通し説教調になりました事お許し頂きたく思います。美しく和のある大会が今後も続きます事を念願している事に他なりません。

(体育部長)



第33回親善バレーボール大会 中入賞チーム

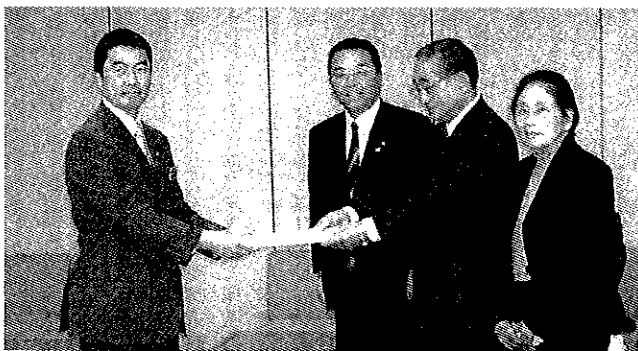
| | | |
|------|-------|--------|
| ブロック | 優勝チーム | 準優勝チーム |
| A | 華の芽星谷 | すがわら |
| B | 大野田 | 岩沼南こぼと |
| C | ナザレト | 多賀城高崎 |
| D | パドマ | ふたばハイジ |
| E | 袋原立 | 華 |
| F | 東北学院 | こどもの国 |

お知らせ
第34回親善バレーボール大会
期日 平成20年10月9日(木)
会場 宮城県総合体育館
(ホットハウスアリーナ・利府町)

知事陳情報告

副会長 横澤 行夫

本年一月十五日、県庁の会議室に於いて、村井嘉浩知事に対しまして、陳情を行いました。宮私連合会より執行部八名、PTA連合会より、渥美巖会長、中島源陽副会長、稲富将夫副会長、横山麻里子副会長、寺澤正志常任委員長と横澤の六名、県私学文書課より、課長はじめ三名の立会いのものと、村井知事に、平成二十年度予算に関わる、私立幼稚園への補助金増額等の要望書を提出しました。母親代表で出席した横山副会長の話、耳を傾け、幼児教育の重要性を鑑み、前向きに努力していきたい旨のお話をされました。



表彰状授与式

○横澤行夫先生

仙台市 お人形社学園理事長

（お人形社第二幼稚園園長）

永年にわたり、幼稚園経営者として、常に創造を求め特色のある経営をめざし、将来を見すえた保育指導を積極的に行うなど、高い理念の持ち主である。また園長として、今も尚精力的に幼児教育一筋に歩んできた功績は誠に大なるものがあります。この度文部科学大臣から教育功労者として表彰されました。



○庄司昭先生

（学校法人庄司昭学園理事長）

永年園長・理事長として、幼児教育の振興充実に尽力され、また宮城県仙台市PTA連合会の発展充実に貢献された功績により、この度宮城県知事より教育文化功労賞を受賞されました。

（副会長 稲富 将夫）